

富士総合火力演習

カレッジ防衛モニター 神田 祥佳

雨に見舞われる中、富士総合火力演習を生まれて初めて見させていただきました。運良く、火力演習の間は雨が降ることなく、素晴らしい演習を見させていただきました。初めて見る砲弾の迫力に、最初はただただ呆然としてしまいました。放たれる光のあとに聞こえる砲弾の音は、恐怖さえ感じ、これが兵器というものなのだと実感させられました。特に戦車の放つ砲弾の音を初めて聞いた時、その余りに大きい音に驚いてしまい、体がびくっとなってしまいました。砲弾を放つ瞬間をカメラに収めたくて構えるも、音がする度に体が驚いてしまい、写真を撮ることができませんでした。

また、自衛隊の方々の俊敏な動きも素晴らしいものでした。一つ一つの動作にメリハリがあり、尚且つ早い。日々の厳しい訓練からそのような行動ができるようになるのだと思いました。

このような素晴らしい機会をいただけたこと、感謝いたします。また来年もぜひ、見に行きたいと思えます。

霧と発火炎

カレッジ防衛モニター 榎木 達志

8月18日(火)、東富士演習場。朝早くにも関わらず多くの人が集まり、早い段階でスタンド席は満席となる区画が出るほどであった。午前中で標高が高いこともあり、向かって左側オーロラビジョンの方から濃霧が見学席近くまで押し寄せる。航空科の方々には嬉しくないだろうが、見学する側としては暑くなく、寒くもない絶好の見学日和となった。本番では無いものの、例年多くの人が見学に来ると聞いていたが、予想以上だ。売店も多くの人が集まっていた。因みに自分は迷彩ポンチョと作業帽を購入した。

そして演習が始まると、野戦特科の車両が進入。素早く自走砲を展開し、砲撃。あの感覚は、あの場に居なければ分からなかったであろう。マイクを通しては伝わらない衝撃。本物の砲撃を初めて体感した感動は筆舌尽くし難い。

次の衝撃は指向性散弾、所謂クレイモアだった。ゲームや映画等のメディアでは、手榴弾程度の爆発力で表現されるが、その炸裂音は野戦砲を上回る程であった。これを沿岸部に設置されては、迂闊に上陸など出来るはずが無い。

そして最新型の戦車、10式戦車の登場。砲撃には心が踊った。統制の取れた機動、ブレの無い砲身、急停止からの一斉射。極めつけはスラローム射撃だ。重厚な戦車がけたたましくエンジンを吹かし、不整地を走り、発火炎と共に貫くように響く炸裂音。男に生まれ、これに興奮しない者がいるだろうか。

戦車に限らず、不整地を危なげも無く駆け抜け、素早く展開するその様は、国を守る、その言葉に恥じぬ物であると自分は褒め称えたい。